

令和6年度 学校評価表(年度末)

愛南町立城辺中学校

【選択肢】 A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない ?..判定できない				回答数 教職員11 生徒118 保護者90 地域住民44				評価資料		アンケート 結果のう ち肯定(A、 B)の割合		アンケート結果(人数)				
重点目標		評価指標 及び目標値		期間	評価	学 校 に よ る 考 察<◇> 及 び 改 善 策 等<◆>						A	B	C	D	?
健康・ 安全 教育の 推進	健康教育の 推進	基本的な感染 予防対策や食 育指導、保健 指導等を通し て、健康的な生 活をしようとする 生徒を育てて いる。	中間 期	B	◇生徒の評価が80%未満のため評価はBとした。「早寝早起き朝ごはん」の状況について、生徒の毎日の個人健康観察から、起床時刻の遅い生徒がいる。また、朝食摂食状況は95～98%であるが、食事の内容が偏っている傾向にある。さらに就寝時刻については、未調査ではあるものの、日頃の様子からスマホやゲームの使用などで遅くまで起きている生徒が多いのではないかと推測される。 ◆就寝時刻やスマホ、ゲームの使用についての調査を行い、生徒保健委員会での集会や学校保健委員会などで意識を高め、正しい生活習慣の定着を図っていきたい。				教職員	11	100%	4	8	0	0	
									生徒	12	75%	40	46	24	5	
			年度末	B	◇教職員・保護者の評価は80%を超えているものの、生徒の評価が80%未満のため評価は中間期と同じB評価とした。毎月実施の心と体の健康チェックにおいて、就寝時間の遅い生徒や、遅くまでスマホやゲームを使用している実態があることが分かった。生徒は帰宅後のスマホの使用に多くの時間を使っており、深夜1時に降も起きている生徒がいることも分かった。 ◆毎月の健康チェックにより生徒の実態を把握できたため、今後は、生徒保健委員会での集会を利用し、睡眠時間やスマホの使用等、正しい生活習慣の定着を図っていきたい。朝食については栄養教諭、家庭科主任等と組織的な取組を工夫し、保護者への啓発をしていききたい。				教職員	11	100%	4	7	0	0	
									生徒	12	75%	44	45	23	6	
									保護者	8	96%	17	69	4	0	
	防災教育の 推進	防災教育を進め、安全・防災意識の高い生徒を育てている。	中間 期	A	◇評価者のいずれもが目標値を超えているためA評価とした。能登半島地震や4月の震度6弱の地震を経験し、特に防災に対する意識が高まっているものと思われる。1学期には、避難訓練をはじめ、交通安全教室や小中合同の防災学習（避難所運営ゲーム）、心肺蘇生法講習会などを実施し、災害だけでなく身近な安全確保についても考えることができたようである。 ◆自然災害を想定した避難訓練だけでなく、熱中症対策やその対応、日頃の交通安全など、身近に潜む危険を回避するための手立てやその方法について学ぶ機会を設け、命を守る高い意識を継続できるようにする必要がある。				教職員	12	100%	4	8	0	0	
									生徒	13	99%	75	39	1	0	
			年度末	A	◇評価者のいずれもが目標値を超えているためA評価とした。雨天のため消火訓練や救助袋避難訓練は実施できなかったことは残念であったが、オープンスクールでは、煙体験やクロスロード、避難所設営訓練を通して防災意識を高めることができた。少人数であったが、近隣住民の方にも参加していただけた。また、2年生は国交省大洲河川事務所主催の防災体験学習に参加し、重機の操作を行うなど、復興を担う人材を育成するきっかけをつくることができ、充実した体験となった。 ◆防災に対する意識は高いため、体験を充実させ、より実践的な技能の習得を図りたい。特に地震によって倒壊した校舎はないことから、グラウンドに避難しない訓練や何度もやって来る余震を想定した訓練も検討していきたい。				教職員	12	100%	3	8	0	0	
									生徒	13	94%	62	49	6	1	
									保護者	9	98%	20	68	2	0	
									地域住民	9	98%	15	24	1	0	4
部活動の 充実	部活動に進んで参加し、自主性・協調性・責任感・連帯感等の高い生徒を育てている。	中間 期	A	◇評価者のいずれもが目標値を超えているためA評価とした。ほとんどの生徒が進んで部活動に参加し、その意義を感じていると思われる。ただ、部員不足や合同チームに関する課題、各部の目標設定に関する課題が関係して生徒、保護者の否定的な回答につながったのではないかと考えられる。 ◆部活動を通して、技能だけでなく、返事や挨拶などの規律ある学校生活の基盤を育む指導を行う必要がある。今後も部員数の減少やクラブチームへ参加する生徒が増加すると予想される中で、日々の練習から工夫した部活動運営が大切となる。充実した部活動のために、目標を持った活動が各部で継続することが必要である。その一方で、部活動の再編成について検討する必要があるが、今年度は部員数に偏りが見られた。次年度入学生に対しては何らかの対応が必要だと考える。				教職員	13	100%	4	8	0	0		
								生徒	14	95%	72	37	5	1		
		年度末	A	◇評価者のいずれもが目標値に達しているためA評価とした。部活動に対して充実感・達成感を味わうことができている生徒や楽しく活動ができている生徒が高評価をしていると推察する。その一方で、保護者・生徒の中には低い評価も見られる。部活動において充実感や自己有用感等を得られていない生徒の影響が保護者の評価にも表れているものと思われる。 ◆各部活動の運営のなかで、規律や集団づくり等、人づくりの面を重視することはもちろん、個々や集団の目指す目標設定を見直すことが更なる部活動の充実につながると考えられる。勝利至上主義ではないが、勝つ（上位入賞する）ことを求める過程に部活動で得られる大切な価値を生徒に感じさせられることも必要であると考え。また、合同部活動、拠点校制度等の導入など、部活動の地域移行への動きが今後どのように変わっていくのか注視し、対応する必要がある。現在、生徒には部活動への加入を積極的に促しているが、今後の周囲の動き次第では検討する必要がある。				教職員	13	91%	2	8	1	0		
								生徒	14	92%	69	40	4	5		
								保護者	10	82%	27	47	10	6		
								地域住民	10	98%	15	24	1	0	4	
学校運営協議会委員の所見(中間期)	・健康教育の推進については、生徒個人個人が高い意識を持てるような啓発を続けてもらいたい。 ・朝ごはんを食べない生徒だけでなく、生活習慣の問題で、食べることができない生徒がいるかもしれない。負担の少ない朝食を保護者にも提案していくことが必要かもしれない。				学校の対応(中間期)	・よりよい生活習慣の推進については、保健だよりや給食通信など各種通信においてお知らせしているところである。今後も様々な手立てを考えたうえで、意識を高め習慣化が図れるように啓発を続けていきたい。										
学校運営協議会委員の所見(年度末)	・正しい生活習慣の大切さを、「対話活動」を活用して啓発していく必要がある。 ・防災学習に参加し、参考となる内容もありよかった。今後は、いかにして保護者や地域住民を巻き込むか、その手立てを検討してほしい。 ・体験入学では、関心を持って部活動を見学している新入生の姿を見た。その思いを少しでも汲み取ってあげられるように、部活動の在り方を模索してほしい。				学校の対応(年度末)	・正しい生活習慣について生徒自身に考えさせたり、生徒の実態や課題を個別懇談等を通じて保護者と共有したりすることを通して、一人でも改善に向かうように取り組む。 ・「保護者・地域住民と一体となって」取り組む防災学習には至っていないが、啓発とともに公民館や区長などと連携して活動に取り組む手立てを探っていきたい。 ・人づくりを第一とし、生徒が充実感・達成感を得られるように部活動の在り方を検討していく。										